

専門領域別企画 | 専門領域別：コーチング学

📅 2025年8月29日(金) 11:00 ~ 12:00 📍 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a401-01] コーチング学／キーノートレクチャー／比較競技論の意義と今後の課題

司会:森丘 保典(日本大学)

[09コ-KL-1]

比較競技論の意義と今後の課題

*青山 清英¹ (1. 日本大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：コーチング学

📅 2025年8月29日(金) 11:00 ~ 12:00 📍 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a401-01] コーチング学／キーノートレクチャー／比較競技論の意義と今後の課題

司会:森丘 保典(日本大学)

[09コ-KL-1] 比較競技論の意義と今後の課題*青山 清英¹ (1. 日本大学)

<演者略歴>

- ・2011年 日本大学 教授
- ・社会的活動 2025年 日本コーチング学会会長、2023年 日本陸上競技学会副会長、2002・2011年 日本オリンピック委員会強化スタッフ等を歴任

現代においては、さまざまな種目が誕生し、多様化する中で種目間での「共通言語」で可能にするための「理論的枠組み」が求められるようになってきた。そのような状況下、日本コーチング学会は「トレーニング（練習）と指導に関する一般理論」として「一般コーチング学」を体系化し、その成果を2017年に叢書『コーチング学への招待』として上梓している。個別種目のコーチング学と一般理論としての一般コーチング学は、相補的な関係にありながら発展してきた。しかし、一方では個別種目の理論の「蛸壺化」が進み、一般コーチング学の広がりが見られないといった問題点がある。そこで両者を架橋する類型別コーチング学という考え方が生まれてきた。

類型別コーチング学では、競技スポーツの勝敗を決定する方法の違いに基づいて、①測定スポーツ、②評定スポーツ、③判定スポーツの三領域に競技スポーツを分類している（金子、2005）。この三領域ごとに当該領域に位置づけられる種目間での「比較競技論」を発展させることができれば、個別理論と一般理論を架橋し、両理論の乖離を解消することが可能となる（金子、2015）。今回のキーノートレクチャーでは、コーチング学の学体系のなかで、このような位置づけにある「比較競技論」の意義と課題について概説する。